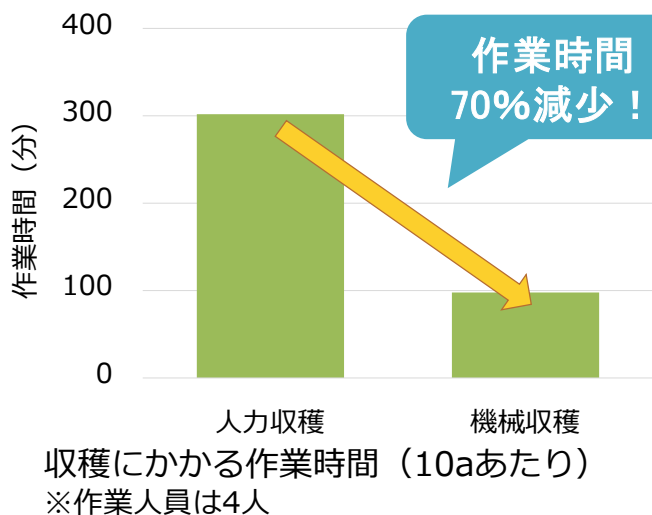


# キャベツ収穫機の利用技術

本県におけるキャベツ生産では、育苗、移植、管理については、機械化が進んでいるものの、収穫機の普及は遅れています。収穫機を導入した場合の作業能率と作業精度、また、機械で一斉収穫しやすい株間についてご紹介します。

## 収穫機の作業性



収穫機による収穫作業の様子  
(収穫機：ヤンマー社 HC14000)

収穫機のカッター刃の高さによって作業精度、出荷調整にかかる時間が変わります。

カッター位置	外葉の除去	商品球への損傷	出荷調整時間
高	少ない	多い	少ない
低	多い	少ない	多い

カッターの位置が高すぎると球を傷つける恐れがあります。  
作業前にはカッターの位置を確認しましょう！

## 栽培様式の検討

- 一斉収穫による球重の不揃いを低減するため、株間の検討を行いました。

表1 株間の違いが結球に及ぼす影響 (2022年)

株間 (cm)	平均 収穫日 (月/日)	同左 CV <sup>※1</sup> (%)	結球			1球重 (g)	結球 緊度 <sup>※2</sup>	球径指数	反収 <sup>※3</sup> (kg/10a)
			長径 (cm)	短径 (cm)	球高 (cm)				
30	1/28	6.0	18.8	18.4	13.8	1,646	0.64	74.8	7,317
35	1/22	4.0	20.4	19.9	15.2	2,124	0.65	76.4	8,093
40	1/26	6.8	19.9	19.3	15.4	2,068	0.64	79.3	6,893

定植日:2022年9月13日 品種:「冬藍」

※1 CV=変動係数=標準偏差(SD)/平均値×100、定植日から収穫日までの日数により算出

※2 結球緊度=結球重/(1/6×π×長径×短径×球高)

※3 栽植本数 30cm 4444本, 35cm 3850本, 40cm 3333本

・株間を35cmにすることで、収穫日のばらつきが減り、収量も8t/10aを確保できました。